

アナログマジックデモンストレーション報告 (2019.4.27)

1. はじめに

[新着雑誌記事紹介【2019No.12】](#)で紹介したアナログマジックは、ターンテーブル・トーンアーム・カートリッジ・フォノイコライザーなど、アナログオーディオのセッティング全てにおける細かな状態の測定を、PC を使用して統合的に行える今までに類を見ない先進的なソフトウェアとのことです。

アサヒステレオセンターには、デモ機とソフト一式があるということでしたので、デモを依頼し、同好の士と参加しました。

2. 使用機器・ソフトウェア

必要な情報は下記から得られます。

ノアアナログマジック発売案内

http://www.noahcorporation.com/analogmagik/20180821analogmagik_release.pdf

アナログマジックサイト

<https://www.analogmagik.com/>

ダウンロードサイト

<https://www.analogmagik.com/download>

必要なものは下記のとおりです。

- ・ Test LP 2 枚 (33 1/3 回転用、45 回転用)
- ・ ソフトウェアを PC で起動するための「USB ライセンス・キー」
- ・ A/D コンバーター機能を備えた推奨別売品“USB Phono Plus”

さらにアサヒステレオセンターで W10 PC とおよびフォノイコライザーSOUND PE-50 とアナログプレイヤーPIONEER PL30L およびカートリッジ Shure Type IVを準備していただいています。



アナログプレイヤー



PC および USB Phono Plus

3. デモンストレーションの経過

下記取り扱い説明書記載の測定法の順序に従って順次測定を行って行きました。PC画面の右側に測定項目の一覧がありますので、それを選択して行きます。

1. ターンテーブルの回転速度 → 写真1
2. ターンテーブルのワウ・フラッター値 → 写真2
3. カートリッジのアジマス (左右傾きバランス)
4. カートリッジの VTA (Vertical Tracking Angle=垂直トラッキング角)
5. カートリッジの VTF (Vertical Tracking Force=トラッキング力・針圧)
6. トーンアームのアンチスケーティング力 → 写真3
7. フォノイコライザーのインピーダンス設定 (テストせず)
8. フォノイコライザーのゲイン設定 (テストせず)
9. システム全体の振動値
10. システム全体の共振値

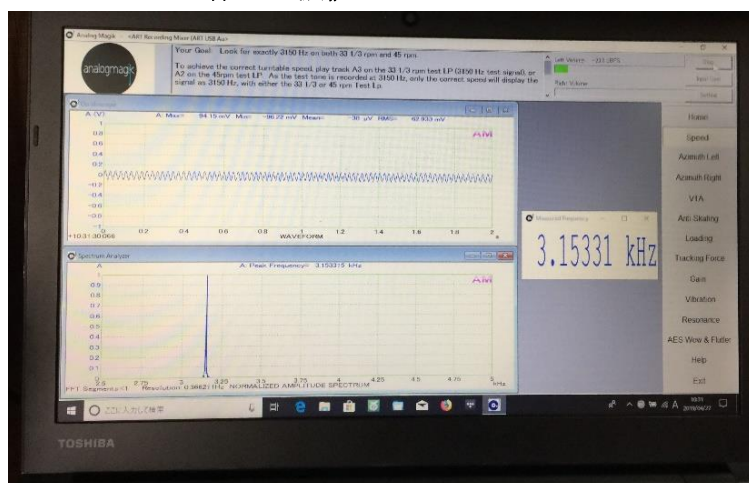


写真1

各測定項目のページには、測定の意味と測定例と何をどのように調整するかの説明があります。写真1はターンテーブルの回転速度で、3.15KHzであれば、良好とのことです。

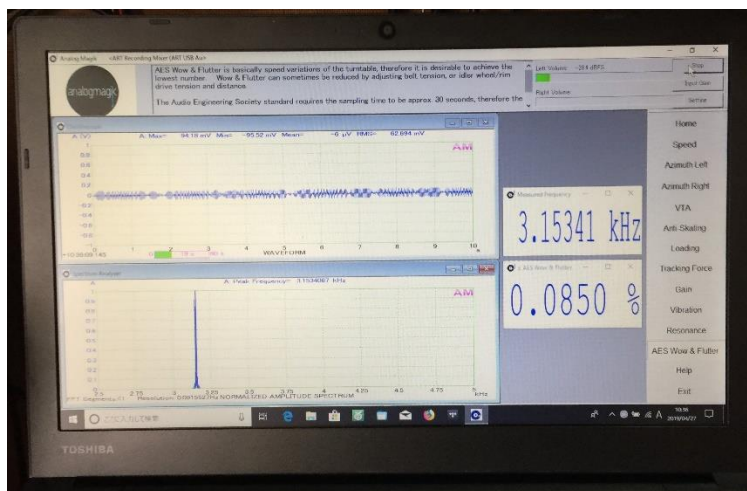


写真2

写真2は、ワウ・フラッターの測定例で、0.0850%と出ています。

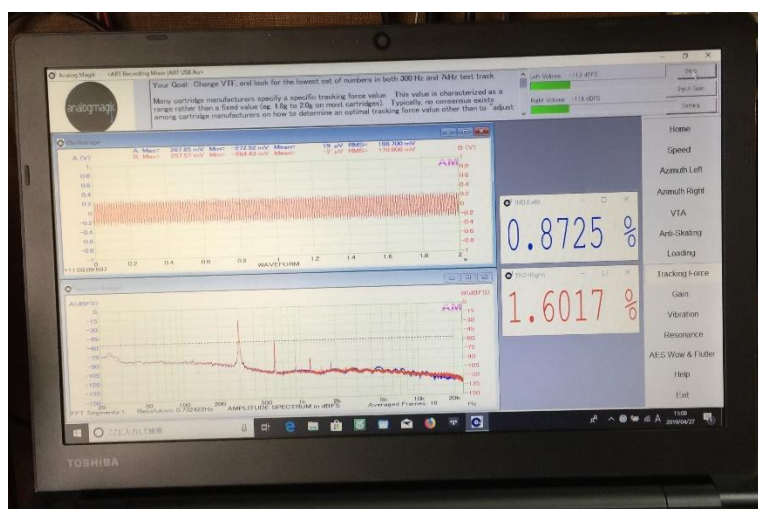


写真3

写真3では、アンチスケーティングの測定結果ですが、青字がL、赤字がRの測定値ですが、Rの方が1%を超えていますので、すこし問題があります。

上記のように測定方法はおおむね習得できましたが、測定されたデータの解釈、それに関連する調整項目およびその方法の習得には熟練を要しそうです。また、各調整項目には単独で調整可能なことと、複数の調整が相互に交絡していることもありますので、測定と調整を繰り返し行うことが必要と思われます。

この後、引き続き、micro iDSD による TIDAL のデモを行っていただき、Master Quality 音源対応の設定の説明を受け、同席の Mt.T2 氏、D 氏、ST 氏にも Master Quality 音源再生の音質の体験をしていただきました。

4. まとめ

アサヒステレオセンターのデモで、本ツールの測定法が習得できました。測定されたデータの解釈、それに関連する調整項目およびその方法の習得および調整結果と音質の関係など、種々検討すべきことがあります。

以上